

令和3年度 第1回 旭区区政会議（子育て・やさしさ部会）会議録

1 開催日時

令和3年7月19日（月） 午後7時から午後8時20分

2 開催場所

旭区役所 第2・3会議室

3 出席者

（1）委員

木野 部会長、清家 副部会長、浅野 委員、飯田 委員、井上 委員、岡 委員、岸本 委員、横田委員

（2）旭区役所

東中 区長、小林 副区長、小山 企画総務課長、山田 企画調整担当課長、長谷村 窓口サービス課長、杉原 保健福祉課長、佐野 保健・子育て支援担当課長、戸田 生活支援担当課長、西 企画総務課担当係長 他

4 次第

（1）開会

（2）区長あいさつ

（3）議題

①令和3年度旭区運営方針における主な具体的取組について

・あさひキッズネットの取組

②その他

（4）その他

（5）閉会

5 議事内容

○企画総務課 西係長

ただいまより、令和3年度、第1回旭区区政会議 子育て・やさしさ部会を開催いたします。

本日は、ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。

私は本日の司会を務めさせていただきます旭区役所企画総務課担当係長の西でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の区政会議はコロナ禍での開催となり、換気や一定の距離を確保した座席配置、アクリルパーテーションの設置など、密を避けるよう留意させていただいております。

本日の運営において、机、椅子、マイク等の消毒等、十分な配慮を行ってまいりますとともに会議時間が長時間にならないよう効率的に進めさせていただきます。

委員の皆様にはマスクの着用や手指の消毒、入り口での検温等ご理解ご協力賜りありがとうございます。また会議中マイクを使用される場合は配布させていただいておりますビニールの手袋をご使用いただきますようお願いいたします。

まず、当部会につきましては、旭区区政会議運営要綱において全体会議について定めた条例の規定にならって開催することが定められており、委員の定数の2分の1以上の出席がなければ会議を開くことができないという条例の規定がございます。

今現在で定数15名のところ8名のご出席をいただいておりますので、本会は有効に成立しておりますことをここにご報告させていただきます。

またこの子育て・やさしさ部会は公開としておりまして、後日会議録を公開することとしております。そのため会議を録音させていただいておりますので、マイクを使用してのご発言にご協力をお願いしたいと思います。

本日、お配りしております資料について確認させていただきます。次第に記載のとおり資料1から3、参考資料1となっております。

委員の皆様につきましては、委員名簿をお配りしておりますので、個々のご紹介は省略をさせていただきます。

なお、京極委員、小出委員、高岡委員、田中委員、朴井委員、吉本委員、山田委員におかれましてはご都合により欠席となっております。田中委員は今回新たに旭区の老人クラブ連合会ご推薦で前任の阪上委員に代わりご就任をいただいております。

また区役所職員の出席者につきましては、お手元の配席図に記載をさせていただいておりますので、個々の紹介は省略させていただきます。

それでは会議開催にあたりまして、区長からご挨拶を申し上げます。

○東中区長

失礼します。区長の東中でございます。本日、皆様方にはこの暑い中を区役所にご足労いただきまして本当にありがとうございます。

いつも区政に多大なご協力をしっかりといただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

木野部会長、清家副部会長のもと、このように今回の区政会議、子育て・やさしさ部会を開催させていただけますことに本当に感謝申し上げます。

この部会をこういう集合・対面というリアルな形で持たせていただくということには様々なご意見をいただいております。一方で昨年あまり会が持たれなかったということにつきましても様々なご意見をいただいております。このコロナの下でこの会の持ち方をどうしたものかということにも、色々なご意見をいただいております。そういう状況ではあるのですが、やはりこうやって顔をしっかりと合わせさせていただいて、ある程度距離をとりながらではございますけれども、具体的な課題について様々なお話をお伺いする、この区のことで皆様方と意見を交わさせていただけるというのは非常に大切なことであると存じております。

それから、コロナウイルスのワクチン接種の状況について、この場をお借りして恐縮ですが、お話をさせていただきます。おかげさまで医療従事者をはじめ皆様方のご協力のおかげをもちまして、集団接種がかなり進みました。そしてまた町のお医者様のほうにおかれましても個別の接種が非常に進んでおります。旭区の中でも65歳以上の方には相当の割合で接種が1回以上は進んでいると推定されますし、また2回以上お済みの方もかなりの割合でいらっしゃると思います。しかし今、第5波が確実に参っております。コロナウイルスで新しいデルタ株も生まれています。お医者様でいらっしゃる木野部会長の前で、こういうことを申し上げるのはなかなか小恥ずかしいのですが、徐々に社会が元気を取り戻していけるように、私ども行政としても一緒に力を尽くしていきたいと思っております。

このような矢先ですが、ワクチンが入ってこないという状況となりまして、大変ご心配をおかけしておりますこと、本当に申し訳ございません。国からのワクチンの供給がまた見えてまいりましたならば、今後、町のお医者様を中心に、あるいは大規模会場のほうもしっかりと接種を進めさせていただいて、徐々に年代の層を下ろしていきながら、社会全体にワクチンが広がっていくように行政としてもしっかりと進めさせていただきたいと思っております。

さて、この区政会議というのは、この間のいわゆる市政改革、区政改革の中で過去になかった形で具体的な課題について、私ども区と区民の皆さま方のご代表の方々が意見交換を行うものであり、今回は部会ということで、テーマを絞った形で、担当課長からご説明を申し上げます。いただいたご意見を私ども吸収させていただきながら来年度に向けて、再来年度のことも展望しながらどのようにしてよりよい区にしていったらいいのか、そういう意見交換を皆様方とさせていただける、本当にありがたい場であると思っております。進行上、最初はどうしても私どもの方からご説明を申し上げて、そしてやりとりという流れになってしまうので大変申し訳ないのですが、一旦まず、担当課長から今回の主な内容につきましてご説明を申し上げまして、そのあと自由闊達に意見の交換ということで、皆様方のお考え、ご意見をお伺いすることができればと思っております。

夏の暑い中、色々とお忙しい中、ご足労いただきましてありがとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○西係長

それでは、議事に入らせていただきます。

部会長に進行をお願いしたいと思います。木野部会長、どうぞよろしくお願いいたします。

○木野部会長

はい、部会長の木野でございます。副部会長の清家さんです。議事を進行させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度、第1回ということで、新しい区長さんも、初めての区政会議です。今回は部会ですけれども、また全体会議があります。あと2回で改選となります。私を含め2期目の方は最後の部会になるかと思っておりますので、また後ほど、時間を十分とって思いの丈を述べ、十分議論を尽くして、次の方に繋ぐという役目もありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ワクチンのことはもう、さっき区長さんが言われましたので、またどこかで何かあればお話しさせていただきます。

それでは、議題の(1)「令和3年度 旭区運営方針における主な具体的取組について」事務局より説明をお願いいたします。

○山田課長

みなさん、こんばんは。企画調整担当課長の山田です。どうぞよろしくお願いいたします。

始めに私のほうからお配りしています資料のご説明をさせていただきたいと思っております。

座らせていただきます。失礼します。

資料1をご覧ください。前のスクリーンにも映し出しておりますので見やすいほうをご覧くださいと存じます。

この資料は令和3年度旭区運営方針の主な取組概要を記載しています。資料真ん中の「安心して住み

続けられるあたたかいまち旭区」の実現のために経営課題の1から4について重点的に取り組んでおります。

4つの経営課題のうち、資料上の左側の経営課題1「子育て・教育環境の一層の充実」並びに資料上の右側 経営課題2「区民一人ひとりの生活に寄り添った福祉・健康政策の推進」が子育て・やさしさ部会で取り扱っていただく経営課題となります。

資料左上の経営課題1の右横に数字1、4、16、17と番号が入ったアイコンがありますが、これは経営課題に関連するSDGsの目標を記載しています。SDGsとは持続可能な開発目標という意味で、大阪市でもSDGsの達成に向け取り組んでいるところでございます。詳しくはこの資料の一番下にSDGsについてと説明を記載していますので、またお時間のある時にご覧いただきたいと思います。

経営課題1の戦略1-1「子育て支援の充実」の横に概要版ページ3~4と記載していますが、これは資料2の令和3年度旭区運営方針概要版のページ数を記載しています。資料1ならびに資料2を併せてご覧いただきたいと思います。

それでは本日は令和3年度旭区が特に重点的に取り組んでいるものとして経営課題1戦略1-1の太字で記載しています「あさひキッズネット」について担当課長のほうから説明させていただきます。

○佐野課長

皆さん、こんばんは。忙しいところ、どうもありがとうございます。

旭区役所の保健・子育て支援担当課長の佐野と申します。

お手元に資料3がありますが、前の画面を併用しながら説明します。

私からは「あさひ子育て安心ネットワークセカンドステージ」ということで、なぜこういう表現をしているのかを詳しく説明していきたいと思います。

ご存じでない方もおられると思いますけれども、「あさひ子育て安心ネットワーク」、通称キッズネットと呼んでいますが、実は平成24年1月に区内で重大虐待事件が起きました。最初は、お風呂で溺れたと言っていましたが、実際はお風呂で叩きつけていたということで、くも膜下血腫で脳症を起こした子どもがいました。同時期に、市内でも児童虐待が多発しており、なんとか子育て支援をできないかということで、それは区の思いとして、皆さんの思いを結実して平成26年3月に、こういうネットワークが発足しました。様々な主体が相互に連携、情報交換して、地域ぐるみで妊娠中から子育て中の家庭を応援するために皆さんが集まるという定期的な取り組みをしてきました。年3回の会合、これで顔の見える関係づくりを進め、キッズカードを全乳幼児にこういうカードをお渡しして、スタンプを貯めていけば、キッズグッズがもらえとか、このカードを見せたら地元の商店街の協力しているところで割引がいただけるとか、そういうのをやってきました。研修会も実施しました。設立から7年が経ちまして、顔の見える関係が本当に進み、個別案件への対応が凄く素早くできるようになりました。ここにおられる岸本委員長、岡委員がやっておられる民生委員児童委員さんをはじめその中の主任児童委員さんなどにご協力いただき、通報していただき区として素早い対応が取れるようになってきました。今日も区役所に主任児童委員さんに勉強に来ていただいたとか本当に良い環境を作れたと思っています。キッズネットは、年3回の会議ですが、これまで私が赴任するまではある意味ちょっと飽和状態にありました。行政に対する取り組みが不十分ではないかということがあったので、私自身2年間は徹底的に行政の取組を進め、その方向を中心に会が進んできて、そこで、行政の取組に対する評価もあり、信頼関係が出来てきたと思っています。しかしグループ討議をしているのですが、人数が大所帯になってきたので、議論が、話す時間が足りない、というかそこで終わってしまっ、次に会議をしてもまたそこで終わってしまい、次の4

カ月後に持ち越しと。この繰り返しが結構ありました。さらにコロナ禍で集まることができず、2回会議が飛びました。あとまだまだ各団体の日常の活動を詳しく熟知するまでには、皆さん忙しい中でやっているのでも詳しく他の団体の活動を知るまでには至ってないです。まだまだもっとそれぞれの活動をお互いが知っておけば、相談を受けた時にどこに繋いだらいいのかとか、そういう関係性ができてくると思います。また、ネットワークの具体的なイメージっていうのはなかなか湧きにくく、個別団体が色々な取組をやっているのですが、この青いラインというのは区役所のラインで、薄いみどりの部分が地域で見守りをしている部分です。そういう情報が集まったりして、この赤い個別ケース検討会議とか、いわゆる要保護児童、ハイリスクアプローチと対策にも役に立っていますし、地域では、例えばマタニティカフェをやっている方もおられますし、主任児童委員が子育てサロンをやっています。そこを繋いでいくというイメージを作って、皆さんひとつひとつの活動のそれぞれが繋がっているということを見える化して皆さんに意識していただいた。ただまだまだ隙間がここにあるのでその隙間を、ネットワークをもっと密にしていこうという、いわゆる今までやっていることが、すべてがネットワークなんだという構想を出しました。それがこの図にある「あさひ子育て包括支援ネットワークシステム」です。

それで我々ちょっと考えたのですが、行政と基幹医療機関と社会福祉協議会で協定書を2月24日に結びました。1つは地域の子育て支援におけるネットワークに関することをこの協定で謳っております。2つ目は子育て教育に関すること。3つ目は子どもの心身の教育、健康及び福祉に関することについて具体協議を進めていく。その中で、これを見てもらったら良いのですが、キッズネットを発展させた包括支援システムとして、医療機関である地域拠点病院の大阪旭こども病院、行政である旭区保健福祉センター、福祉に関する知識ノウハウのある旭区社会福祉協議会、この三者が基幹となって相互に今までやっていることを繋いで全体として包括支援をやっていこうと考えました。

それで、コロナ禍でなかなか会えない状態が続いているのでより具体的なネットワークシステムを構築しようということで子育て支援に関する団体をネットで繋ぐ。色々な子育て支援団体があって、そして運営主体である我々があり、そこでスピナー（Spinner）というクラウドシステムを使って、まず例えば私どもからテーマを発信して、2番目にサイト内でディスカッションしていただいて、それを返していただくと。それと我々だけでなくも個々の団体同士での意見交換をネットの中でやっていくと。日常不断に繋がっていくことを考えました。最終的な形態ですが、何のためにそれをするのかというとそれぞれの活動団体をよく知ることによって色々な知識とか様々な共有ができてきますので、それと地域のコミュニティが元々あります。今まで商店街などでキッズカードに協力してもらっていました。また個々の地域の活動についても相互にやりながら情報提供、交換して、個々のコミュニティから働きかけということで、こういういわゆる子育てに直接関係性のない団体とも繋がりながらやっていくというのが、まず1点。もう1点は最終的には、子育て中の家庭にですね、この中から一般公開サイトで発信して、このサイトを見れば旭区の子育て支援に関わるすべてがわかるサイトを構築したいと思っています。セカンドステージと言わせていただきましたが、これは私見で「IIS」と表記しました。トップページの構成はこういう構成で、スクロールしていったら、団体紹介を見られるという形になっています。で、大きく分けて、3つの役割があり1つは動画が表示される部分があります。各団体で動画を提供していただくと。ちょっと大きくしてみます。それで、ここには新着を4つだけ載せる。ここの部分には今まで投稿してきたものが、アトランダムに流れてくる。最新の情報だけではなくて、過去の情報がアトランダムに半日単位で流れてくるということでこの団体にここでアクセスするとコメントを付けることができる。その活動に対して、「いいね」とか、これは真似させてもらいますとか、相互にやっていくということです。2点目は各団体が紹介するこのサイトの部分で、ここに色々なものが加わってくる、クリックして専

用ページを開いたり、ホームページにもリンクできるようにしたりとか、団体の紹介文を載せたりとか、団体の活動内容をクリックしたら出てくるというような団体を見られるページです。まあ要は市民がこの団体は、どのような活動をしているのかということが分かるようにしています。それと、私が一番好きなのはこのオンライン会議を呼びかけるところですね。この部分を拡大しますと、例えば私は常々しゃべりたがりなので、コロナの状況を皆さんに教えたい、今の旭区の状態を伝えたいというのを私のできる時間に、たとえば木曜日の午後4時から配信しますと言ったら、みんな聞きたいという人が、3人か4人集まればそれで成立ということで、勝手に開始して情報を流すと。それで例えばリアルタイムで4人が聞いて質疑等するのですが、それがアーカイブになって何日か後で他の人でも見ることができると、そういうようなことをしたい。ここが一番大好きなページで例えばズーム（Zoom）会議とかですね。オンライン会議を開くのもありですし、ただ木野先生が子どものことに対しての知識を皆さんに出したいというような時、子育てに関してですね、ミニ講演会みたいなことをやりたいなと思っています。このサイト面白くて、ここのSpinnerを作っている方がですね、やっぱり、みなさん、高齢の方もいますので団体更新がしにくいとかいう意見がありましたら、飛んでいってくれるという話になっていますので。それで問い合わせのホームページがあり、いつでも質問ができ必ず回答が返ってくるというようなサイトもあるというのが、ありがたいと思っております。

まとめです。セカンドステージ、次なるステージということで、キッズネットとの繋がりをツールとしてシステムを構築したい。もっともっと各団体や子育て支援のグループの活動や意見、考え方を知って、相互理解を深めていきたい。それで、2年以内にネット上で一般公開を目指す。我々は、やはり子育て支援なので、我々の先にはご家庭のお子さんを見据えていますので、そこに公開しないと意味がないと思っています。この過程を通じて包括支援システムを確立していきたいと思っています。また最後に新しい取組ですが、キッズカードは、今、7年目に入っていて、最初に配られた子がもう小学校に入ってるんですね。それで、小学校のツールがないので、これは行政の健康教育という形で相談支援に繋げるツールとしてキッズノートというものを配布したいと思っています。さらなる展開としてやっていきたいと思っています。以上です。ありがとうございます。

○木野部会長

はい、ありがとうございました。短い時間で、分かりやすく、分かりやすかったかどうか分かりませんが、こういうのは、本当に話して理解してもらうのはすごく大変だと思います。ですから利用すれば分かりやすいかなと思うのですけれども。只今のご説明に、ご意見、ご質問ありましたら、これから15分程時間を取りたいと思っています。是非、何でも結構です。この内容も、もちろんそうですけれども、これに付随したこととかもあれば是非、言っていただきたいと思っています。

何でも結構です。

そうしましたら、区長さん、いかがでしょうか。

○東中区長

私もこの4月にこちらに着任させていただいて、今、佐野課長からご説明申し上げた内容を4月からずっと説明をもらいながら勉強していたんですが、皆様方のこの間の数年にわたる、数年というよりも旭区伝統のこの温かい子どもたちを、子どもたちに限らずですけれども、見守っておられるというこの活動と、このシステムみたいなものの何が繋がるのかということです。1つは、今の子育てに悩んでおられる方は、実はリアルとバーチャルの境目が非常に低くなってきている世代の方が増えてきておられま

す。私はリアルと、こういうネットワークというバーチャルという部分をどうしても線を引いて、行ったり来たり使い分けをするんですね。それはもちろん大事ですし、そうしておかないと危ないですけども、でも一方でもう次の世代というか、これからの世代の方々というのは生まれた時から当たり前にスマホなりパソコンなりでバーチャルの世界の繋がりとリアルの世界との繋がりを混ぜながら実に上手く行ったり来たりしています。例えば相談するにしても、リアルは正直ちょっと心理的な抵抗があるし、なかなか時間もないし、ということで、バーチャルのほうで相談する。バーチャルといいますか、バーチャルの奥にリアルがある訳ですけども、そういう意味でのバーチャルなんですけれども、ネットワークですね。ここでいうネットワークというのは「キッズネットワーク」のネットワークではなくて、システムでのネットワークという意味ですけども。それで、実にいろんなチャンネルでご相談をされておられる。我々も、そういう形の一つとして触れていただけるということですね。そのところが、私自身もなんですけど、そこを越えたところで次の世界が広がっているというところが大きいと思いました。本当にこのツールというものを使いながら、より相談をしていただきやすい、それで地域の子どもさんたちを見守って、より具体的で素早い反応の見守りに繋げていくことができるんじゃないかな、とそんなふうに思いました。その背景にはコロナというものもあります。

2点目なんですけれども、これが何を目指しているかと言いますと、今佐野課長もお話しましたように次のセカンドステージを目指していて、子供たちの、あるいはお困りのご家庭のところに、より素早くぱっとリアルに動けるようにする、その繋がりをここで作るんだということです。イメージとしましては、大きいショッピングモールです。子育てモール、子育て支援モール、子育て情報モールですね。これまでもですと、行政がページを作って、はい皆さん見てねと、そんな感じだったんですね。そうではなくて、まさに本当に日々心を砕いて活動してくださっている地域の方々、あるいは病院さん、学校さん、団体さんとして具体的な情報を持ち寄ってお話し合いをしていただける、そういうモールを、大きい集いの仮想の子育て空間、みんなで子育ての支援になるものをこのウェブの空間に作ることで、その先が見えてくる。お互いの顔が見える。そこで出会ったら、お話をしていると何となく前々から会っていたような、なんとなくいつもお話しているような感覚というのが育ってまいります。その感覚、お互いのシンパシーの感覚って、地域も一緒に我々も共に子どもたちを見守りさせていただくうえで、非常に大事なんですね。そういう一緒にさせていただいている感覚を共有できる場というのが、正直、今、コロナで制限がかかっている。じゃあ何もできないのかというと、こういうことも使って繋がりをあえていっているという、具体的にわかってぱっと動けるだけの基盤となる共有の感覚というものを一緒に育てていきたい。旭区としては、皆様方と一緒にそういうところをさせていただければと思っております。先生も、企業さんも心からの支援ということと地域の皆様方のこれまでのご活動の力があってのことなのですが、こういう形の試みができるというのは、皆様方とのこの見守り活動の共感できるような場のパワー、それを1年2年とした時に、もの凄いパワーになっていると思います。その頃にはコロナも、アフターコロナ、いずれ収まってまいります。リアルに近づいた時にこのナチュラルな、バーチャルで繋がった空間がグーっと大きな地域の見守りパワーに必ずなり得るんじゃないかと思います。といっても行政だけでは何もできません。皆様方と一緒に揃ってこの共感の場というものを作りながらやっていけたらなということでございます。

○木野部会長

ありがとうございました。

ずいぶん先の先まで考えておられるのは、すごいなと思いました。

先ほど 15 分と言いましたけども、30 分くらいとってもいいなと思うので、是非皆さん方、今日は自分のことを伝えていただきたいと思います。

私もコロナでズームというのを去年から始めているんですけど。全然知らなかったですね、このズームをやると、ネット環境とかバーチャルというんですかね、やはり顔を知らない人と、初めて見た人とズームをやっても全然感動がないですね。よくありますよね、ズームで知らない人が出てきてなんか言うんだけど、全然リアルじゃ無いですね。ところが知ってる人、顔を見たことのある人はズームで出てくるとものすごく親近感があるんですね、やっぱり顔が見える関係というのはすごく大事なのかなと、バーチャルだと特にね、思いました。

そうということで、どうしましょう。一人ずつよろしいですか、指名させてもらって。

そしたらあいうえお順でいきましょうか。浅野委員、是非よろしくお願いします。申し訳ないですが、発言前にお名前だけ言っていただけましたら。

○浅野委員

浅野と申します。今、色々と説明を受け賜りましたけども、機械とか色々なものを使って、発信したりとかお悩みを相談したりすることは、私も昭和生まれの人間だから、そういうことは私だったら今ではできませんけども、今の若いお母さん達だったら、そういうことは出来るのではないかと思うんですけど、それはどなたでもできるんですか。発信するということは、若いお母さんたちは知っているんですかね。

○木野部会長

はい、じゃあ、それでは、そのことは佐野課長さんお願いします。

○佐野課長

あの、実はですね、先ほど区長が申したのですが、急速に時代が変わってしまして。若い世代の子たちというのはもう我々の感覚とはかなり違ってきます。我々は昔、電話でしたけれど。それがポケベルやケータイとかに取り変わっていくのですが、今、スマホを、例えば2歳までにスマホをいじらせている家庭って何割くらいあると思いますか。2歳といわず、0歳児からもうスマホをいじらせているんですよ、9割くらいは2歳までに必ず体験させているんです。ほっといたら、見てしまうから。ちょっと、ウダウダ言ってる子にパッとスマホを見せたら、一人で機嫌よくやっているんですね。そういうお母さん世代というのは、まず我々はFAXとかメールで相談ください、電話で相談くださいとか言うのですが、電話番号すら無い人が増えているというか。携帯電話は持っていますが、全部LINEとかLINE電話でコミュニケーションをとっているんですよ。やはりこういうネットのほうが実はお母さん方に繋がりやすい。だから我々が時代の流れに合わせていけないといけない。今、子育てで、いわゆる児童虐待で悩んでいる人とか孤立している人の声が拾えない時代になってきている。バーチャルのほうを真実だと思ってしまう世代なんで。だから我々がついていくというか、ただついていけない方もおられるので、そこはサポートして、やっていきたいと考えております。

○浅野委員

そのなんていうのか、悩みのある人ってやはりいてると思うのですが、そのような人で、積極的に言っている人もいてると思うんですけども、虐待とかなかなか言い出せない人とか、意見を言いたく

でもこうちょっと言うのが恥ずかしいとか、言わないとか、自分のところに問題があっても言わないお母さんはいてるんじゃないかと思うんです。そんなところをどういうふうに相談に乗ってあげているのでしょうか。

○佐野課長

あの、基本的にはですね、虐待の親が本当に私どもに声を掛けて来るっていうのは、まあ年、4～5ケースくらいです。なので、ほとんど、声はかかって来ないです。従って、我々は基本的には、ポピュレーションアプローチをやっております。例えば母子手帳の発行時に、保健師さんが面接して知っているので、リスクの度合いを見極めながらお母さんと信頼関係を作っていくということを今やっています、その中でやはりお母さんから電話がかかってくる、それこそやはり顔が見える関係をまず最初に作った上で、それで我々の子育て支援の相談グループの保育士が担当してるのですけれども、例えば「こういう講座があるよ」とか、「こういうのは何があるよ」とか、「いつでも悩みを聞くよ」という形でやっていて、繋がっているのが今の現状です。ただ私が知っている第1回の里親シンポの講師に呼んだ辻由紀子さんですが有名な駆け込み寺みたいなのところです。辻由紀子さんのところにはやっぱり Facebook でとか、SNS とか色んな種類があります。それ全部にメッセージをあげているんです。それで繋がってくるケースが出てくるということを聞いていますので、行政が電話等で待ってますといっても絶対に繋がらない世代になってきています。

○木野部会長

ありがとうございます。では、そうしましたら、飯田委員、お願いします。

○飯田委員

旭区PTA協議会の前会長をしていました飯田と申します。

今回、このあさひキッズネットのお話でお聞きしたいのは、まずこのネットワークのページというのはいつぐらいに開催される予定になっているのでしょうか。

○佐野課長

実はこの母体でありますキッズネットの会議は、今年の会合が先週の金曜日にありまして、そこで皆さんにご意見を聞いた上で、我々が示したのは8月下旬から9月の初めにかけて順次団体に入ってもらって登録して、ページを作っていて、そこで年内に試行実施をやった上で1月から本格実施という形になるということです。ただ、一般公開、先ほどお示しましたけれども2年以内ということで2年後ということになると思います。

○飯田委員

この団体の中でのネットワークとホームページにアクセスできるような環境というところを調査されているんですか。接続できる団体がどれぐらいいて、どういう環境があって、今後どういうふうにアクセス環境を整えていけるのかっていうのを調査する等はこういった感じになっているかは分かりますか。

○佐野課長

調査はしていませんが、色々なお付き合いの中でメールとかの交換もしていますし、ホームページを出しているところもありますので、あとはスマホでビデオ動画を投稿していく、簡単に投稿できるシステムになっていますので、最初の段階だけホームページみたいなものを、団体紹介のところを作ってもらったりするので、やはりパソコンが必要だと思っています。スマホでもできないことはないとは聞いています。

○飯田委員

実際その団体として何かを支援するということでの予算組みとか、環境面のサポートの調整というのはどんな感じですか。

○佐野課長

いわゆる通信費等については、自分が繋がっているネットでの自費になります。各団体の。ただ運営に関しては、クラウドを立ち上げていますので、そこは基幹の大阪旭こども病院さんが今取り敢えず「Spinner」を使って院内ネットでやっていまして、その別バージョンとして開発を進めてもらっています。今後それを3者で負担していく。旭区社協と我々区役所と大阪旭こども病院で負担します。やはりそのためにではなかったのですが、地域包括連携協定を結んでいますので、その中の枠組みの中でやっていきたいと考えております。

○飯田委員

今後はその登録された団体の活動に対して、何か募金とかそういう形でのお金の支援とかを、それ以外の団体から受け付けるとかというような構想とかもあるんですか。

○佐野課長

申し訳ないですけど、お金の関係は募金を充てるとかいう考え方は今のところないです。

○飯田委員

では、協定されている3者の中で回していったって、そこから広げていくというのは、今後どうするかというところですかね。はい、分かりました。ありがとうございます。

○東中区長

今、基本的なフレームを先に作っているところで、今おっしゃっていただいたようにだんだん裾野を広げてまいりますと、またもうちょっと可能性とかいっぱい考えないといけないと思います。先ほど、浅野委員からお話がありましたのは、最終的には個人がどう繋がっていくのかというイメージを、多分気にしていただいているのかなと。最初から、個人にも入っていただきたいのですが、そうすると個人情報の関係も大変難しゅうございますから、まずはこの活動をしていただいている皆様方で、この場を整えて、次に今現時点で1年半、ないし2年後ですけども、個人の方にも開放していく。その際に個人情報を出して入っていただきますと皆からぱっと見えますので、どういう形でご相談を受けるのかは慎重に検討する必要があります。まずは一旦そこを見ていただいて、知識を探してもらおうとかそういう形での利用を一般的に多くしていく、そういうステップを踏んでいきたいなと思っています。

この対応は本当にセンシティブな内容になってまいります。ただ我々行政がご相談をお受けしていく

ところの、或いは地域の皆様でぱっと察知していただくところの、この最初の障壁をどう下げていけるかというところを課題視しております。

○木野部会長

はい、それでは、井上委員ですね。

○井上委員

これはこれで非常に良い計画だと思います。ちょっと視点が違うかも知れませんが、子ども会の活動が、どんどんどんどん下火になっているんですね。それで、こういうネットで個々の繋がりをやっても、集団というか全体での繋がりとというのが失われてきている。ここが問題だと、私思っているんです。それで、これで漏れる子も出てくるんですね。例えば、私、高殿ですけれども、高殿小学校で、この間といてもだいぶ前ですが、コロナ感染で急遽、学校が休校になり、その連絡をネットで各家庭にされたんですね。併せて、私は見守りをしていますから、学校から「井上さん、こういうことなので今日は休校になるから、見守りはして頂かなくて結構ですよ」という連絡をいただいたんです。その時、私は待てよと、ひょっとしたらそういう連絡がきちっと出来ていたら良いけど、出来てなかったら、休校だということを知らずに学校へ来ようとする子も出てくるんじゃないかと。逆にこれは、見守り隊で出かけて行って、様子を見とかないといけないと思って、ずっと見て回ったんです。そしたらね、やはり、親御さんによっては連絡が漏れているんですね。それで何人かの子が集団登校で集まる場所に来てるけれども、誰も来てないのでおろおろしてる。各地域で、何人かいてる。今日はこういうことで休校になっているから学校は休みやで、家帰りやと教えてあげて、それでも困ってる子がおられるんです。多分もう家に帰っても、お母さんがいないとかね、そんな子もいてる。ある子はうろうろしている。私はその子の家まで行って、インターフォンで、「お母さん、こういう事で学校、今日休校ですよ」と教えてあげたんです。知らないと言うんです。だから漏れる人も出てくるんです。このようなことも考えないといけないんですね。2歳からスマホをいじっているから大丈夫と思ったら、それもとんでもない間違いだと思うんです。個々と接点があっても集団での接点が無くなっていく、このことをもっと考えるべきだと。安心安全のネットワークより、個々との接点だけじゃなくて、団体として集団としての繋がりをどう築いていくのか。それらが崩れてきているのをどうするのか、このことに焦点を当てないと、これだけでは不十分だと私は思います。以上です。

○木野部会長

はい、ありがとうございました。

そういう時こそ、見守りが必要だというね、本当にそうですよね。見守りもしないということは無いですよ。ありがとうございました。

では、岡委員をお願いします。

○岡委員

私も見守りを、朝出ているものですから、今お聞きして、太子橋はたまたまお休みということとはなかったんですけど、ああ、そういうことがあるんだと、改めて感じたところです。このネットワークなんですけれども、今まで結構、子育て安心ネットワークには出させてもらっていて、割と本当に狭いところで顔の見える集まりが何度もずっと続いていたんですが、ここ本当数年、とつとつとと具体化して来た

なとすごく感じています。キッズコーディネーターの方も実際に配備されているし、さっきからお話聞いて感じたことは、やはりそれまでに集まって、お互い顔が見えてお話していたから、そういうのが出て来たのかなと思うんですね。すごくこれからを楽しみにしています。

○木野部会長

お時間があれば、またよろしく願いいたします。それでは、岸本委員、お願いします。

○岸本委員

新森地区の岸本です。今日は、しゃべらんとこうと思っていたんですけど、今日は区長さんはじめ、皆さんお見えになっているんで、ちょっと3点ほど聞かせてもらったらいいかなと思います。1つは、いろんな形で子育てに対して対応していただいている、すごくありがたいんですけど、私ちょっと気になっているのが、旭区の企業誘致を少し前向きに進めていただけるようなお話をさせていただく場所が一体どこにあるのかなと。一番は企業誘致。それは若者の取り込みということですね。私が住んでいます新森地区では高齢化率が一番かなと思っておりましたが、いわゆるマンションにお住みの方が多くて、平均年齢を少し下げていただいている、高齢化率も実は低いほうであると。少子化の問題からいうと、学校をどうすれば、また若い人が入って来てもらい易い場所となるのか。子育て安心ネットワークの枠からちょっと出たところで、本当に申し訳ないと思うのですが。

それから、2点目は大阪市旭区って、一体どんなところなのか、全国レベルで発信できるようなものが何かないかなと。ある企業の方とお話させていただいた中で、その方は企業家ですので、通産省で色々されておられますが、たまたま厚生労働省にお行きになられた時に、大阪市旭区といたら、木野先生がおられるでしょうと、バチっとそういう言葉が出た。大阪旭こども病院さんという形で、大阪に2つしかないこども病院さんの名前を厚生労働省の人がふっと出すということ自体が、結構旭区も全く知らんという形ではないのだと。その方とのお話合いの中でも旭区というのが出ています。それから他にお話させていただいた方は「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、そして「産業と技術革新の基盤をつくろう」と、私が思うに先程のSDGsに少し寄与しておられるのじゃないのかなと。その方は旭区の方です。長くなって申し訳ないんですけど、タイで子どもさんが洞窟の中で助けられなくなったという事件が3年ほど前にありました。その時にその方はいわゆる蓄光板という電気がなくても太陽光等を蓄えて発光する技術をもって、五千枚を工場からタイにお送りになられて、そして大阪市旭区というものを全世界に発信していただいた方なんです。私はこの方の7年前の講演でお話をお伺いさせていただいて、いつかはこの人の話を聞きたいという思いを持っていたんですけど、5年くらい前からちょこちょこお付き合いができるようになって、そして旭区役所のほうへこういう方がおられるんですよと教えてあげていたんです。役所として応援していただく方法はないですかというお話をさせていただいたんですけど、結果的には一企業を応援する訳にはいかんというのが大前提で話は進みませんでした。けれども僕はSDGsに対してこれだけ貢献なさっておられる状態というのはいろんな形で応援していただける理由にはなるんじゃないかなと、そしたらどこに相談したらええのかなと。私なりに報道機関、市議員さんなど色々お話させてもらったんですけど、結果的には大した反応がいただけませんでした。でも、私は旭区でこういう方がおられること自体が非常に自慢というか、自信といいますか、いいところなんやと。そして過去を遡れば、今現在もあるんですけども、日本タクシーがあり、ダイエーの1号店があり、それから寺西化学さんのマジックインキがあり、旭区はこういう素晴らしい企業がいっぱい発生した地区であることを誇りに思っています。それから、京都に言及させていただくと、あそこは色んな企

業が世界を引っ張っていつているんです。任天堂さんにしろ、ワコールさんにしろ、京セラさんにしろ、本当に何でああいう企業がポンポンできるのかなと、いつも不思議に思って、そういうお話をさせていただきたいなと。話させていただくのはこういう会議の中でいいのかな、でも、皆さんの足を引っ張るんじゃないかなといつも気になっていて、ただ私も木野先生といっしょで、2期目で終わると思うんです。ですから一度そういう部分でお話をさせていただけるというのであれば、企業誘致、若者もどうしたら中へ入っていただけるのか、旭区ええとこやんって言っていただけるように、そういう事も含めてどこで話ができるのかなと思っております。最後にもう一つ。今、3階にありますまち魅力推進課、あその名前は何ていうんですか。何課でしたか。前は柴川課長さんの。

○小林副区長

まち魅力担当です。

○岸本委員

あそこは、僕は基本的に1階に移されたほうがいいと考えます。あくまでも僕はそう考えるということです。そうすることによって、色々な方が入ってこられて、観光のところへお見えになれるんじゃないかなと。私の勝手な思いで、そういうこともお願いしたいなと。長くなりましたが、すみません。しゃべらんとこと思っていたのに。

○木野部会長

そしたら、手短に区長さんお願いします。全部に答えようとするは無茶苦茶時間かかりますので。

○東中区長

まち魅力担当ですね。おっしゃるように市民協働という、今でいう防災・防犯、市民協働、まち魅力、企画的なことも、区民の皆様方、各方面としっかり色んなことをさせていただいていた歴史があります。ただこの間の組織建てが変わってきた経過があります。まち魅力担当の今後に向けてのより良いあり方というのは、それはまち魅力担当が要らないということでは全然なくて、岸本委員のおっしゃるようにどんな形が良いのかなと。例えば企業の誘致という市全体の施策になるので少し間口が広くて、区行政の役割、区の権能ではちょっとしんどい部分が正直あるんですけれども、企業さんの相談の窓口、気軽にご相談をいただけるような部分っていうのはやはり何かないといけないと本当に思います。企業さんへのいわば私ども区としての関わり合いということですね。

それから二つ目は、旭区はどんなところっていう魅力の発信ということですが、正直中々、来ていただかないと、見ていただかないと分からないというのがあります。それは実は、企業もそうなんです。区内に企業さんが増えていただくと賑やかになりますので、この穏やかで静かな区が賑やかになるというのは、生活としてはどうかと、個人的に穏やかなままのほうがと思わない訳ではないです。しかし、町の活性化という目で見た時に、社会の活力ということと、その両方を議論しないといけないなと思っております。次に旭区がどんなところかということ発信する、これも大いに発信をしていきたいんですけれども、発信をしてどんどんお越しいただくと、賑やかで活性化する半面、町が荒れるという面がどうしても出てまいります。ここのバランスが非常に難しいですね。そのバランスの難しさっていうのは恐らく時代とか状況によってどんどん変わります。そのバランスを時代に応じて、しっかりと議論して、しっかりと変えていく。そういうことが岸本委員がおっしゃるご質問の本質の部分かなと私個人的

に思います。そのところは、これから徐々に進めていかないといけないなと思っています。

三点目、京都にはユニークな企業がございますが、旭区もなにになに発祥の地みたいなものがたくさんあります。そういう新たな旭区ブランドの種火を消してはならんと、まち魅力担当でやっています。

皆様方とお話させていただく中で色んな情報をキャッチをして、どういうふうに繋げていくか意識していないといけないと思っています。もう一度戻りますが、まち魅力担当がどうあるべきかというのはこの場でお話するとテーマとしてややずれる感じがいたしますが、区行政が出来ることって何かあるんじゃないかなと思っています。これからもご意見をよろしく願います。

○木野部会長

はい、ありがとうございます。そうしましたら、横田委員お願いします

○横田委員

公衆衛生協会の横田でございます。

ネットでというか、そもそも「Spinner」が分からなかったんです。ちょっと検索してみたんですけど、これかなと思うのがでてこなかったんですけども、「Spinner」についても少し教えていただきたいんです。それと先ほど井上委員がおっしゃたように、子ども会の活動が活発じゃなくなっている。分かるんです。私も子ども会から離れて長いんですけども、役員さんへの負担が重くなっている。私自身も仕事をしていると地域に貢献できることがほとんど無い。それには、ワークライフバランスが十分な形で皆さんできているとは限らない、ワークに偏ってしまっている方たちも多いんじゃないか。そういう私自身の今の生活を顧みると、そういう状況があると地域への貢献は難しくなってしまう。でも、そうでなくても人間関係を作っていく上で、十分な形で地域の方たちと繋がっていけない方たちが増えてきているんじゃないかと思います。だから子ども会だけではなくて町会のほうも役員さんたちの後進がなかなかいらっしやらないという話を聞きますので、その辺り、行政が入らざるを得ない状況もあるんじゃないかなという気がしております。

○木野部会長

よろしいですか。それでは、「Spinner」を。

○佐野課長

はい。「Spinner」というのは商品名と考えてください。例えば「Microsoft Windows」とか「Mac」とか「i Mac」とかそういう感じで、これはソフトの名前になっています。例えば「サイボウズ」という会社がやっているのが「kintone」、「Microsoft」がやっているのが「OneDrive」とかそういう名前です。「iCloud」とかそういうクラウド名だったりとか、会社の製品名です。

○木野部会長

二点目は、まあ、今言われたとおりで、中々自治会の活動ができていないんですけども。いかがでしょうか。

○横田委員

会を活発にするのに自分たちだけで出来るのかなと思っています。

○木野部会長

そうですね。

○小林副区長

副区長の小林です。いつもお世話になっております。

的を得たはっきりとしたお答えを申し上げれるかどうか、ちょっと分からないんですけど。横田委員から、子ども会の役員さんがいらっしゃらないというお話がございました。私、都島に住んでいるんですけども、私が住んでいるのはマンション群でして、マンションで一つの子ども会があります。15 年程前にそのマンションができたんですけども、息子が小学2年生でした。丁度そのマンションに小学生の世代のお子さんがいらっしゃる親御さん、私のような人たちが子ども会を立ち上げました。子どもたちが賑やかにこの地域で過ごせるように、健やかに育っていけるようにということで、子ども会の立ち上げに理解を示し、自らも役員をやって献身的に面倒を見てくださる大人の方がたくさんいらっしゃいました。ところが、そこから15年経って今どんな状況かと申しますと、子ども会に所属している子どもたちが本当に減ってしまって、子どもたちは1年生の時に子ども会に入るんですけども、5年生の親が役員をやるという風習があるみたいで、4年生から5年生に上がる時にみんな辞めてしまう。何故なら、役員をやりたくないからなんだそうなんです。寂しいなという気持ちでおります。自分が特に役員をやったわけではないですが、息子も子ども会で大変お世話になって、活動では一緒に引率したりとか親自身も楽しい思いをさせてもらったんですけど、横田委員から現状をお聞かせいただくと、やはり自分が住んでいるところだけではないんだなと。一方で自分が働かせていただいている区役所・地域の中で何ができるのかというのは本当に考えていけないかなと思っています。先ほど井上委員のほうからも子ども会のお話をいただきました。今日ご説明させていただいたあさひ子育て安心ネットワークについては、昔、重大虐待があってそれをなくしていこう、ゼロにしていこうということで、お母さんが妊婦でいらっしゃる間から広げていって、子どもさんが大きく成長していってと間口が広いんですけども。子どもさんが小さい時に虐待で死んでしまう可能性がある年代の時、プラスアルファ、井上委員もおっしゃったように、小学校とかに上がっていく年代になって友達や地域の人たちと関わりあう、そこで成長していくという健やかさというのにも必要だと思っています。僕は、高殿小学校出身で当時はまだ南小学校と分かれてない時でした。確かに委員がおっしゃるように子ども会も十幾つもあって、子どもはキックベースボール大会とかソフトボール大会とか単位町会で一つのチームを作って大会ができるような、そこで勝った子ども会が次の大会に出ていくような時代でした。そう思うと、子供の数も減っていますけれど、子ども会に参加するというご家庭も少なくなっているのは、そういうことなのかなと思っています。小学時代お世話になってから、もう30数年、40年くらい経ちます。この地域の様子も徐々に徐々に変わってきてこんな感じに、旭区だけでなく大阪市はどこもそんな感じになっているのかなと思っています。

今、はっきりこんな感じでやっていきたいと思っていますという答えはないんですけど、今日お話をいただいた中身について真摯に受け止めて、皆さんとも色々と意見交換していきながら、ちょっとずつでも改善に向けて取り組んでいければと思っています。また色々とご指導いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。すみません、ちょっと取り留めも無くなってしまうして。

○木野部会長

いえいえ、ありがとうございます。副区長さんの子ども会のお話から思いが非常に伝わる感じがします。どうもありがとうございます。それでは、最後に清家さんのほうからまとめながら、お話をお願いします。

○清家副部会長

子育て安心ネットワークのセカンドステージを大きく超えて、いろんな話題になったので、ちょっとまとめるのは難しいんですけども、さきほど委員がおっしゃっていたように、私も公募委員ではありますが、民生委員児童委員の古市地区の委員長をしております。それで、佐野課長が言っておられたみたいにネットワーク会議に最初から参加してきて、その団体のあの人は誰々さんとか何している人だというのが分かってきたところで、このセカンドステージにいて、各構成団体のその活動内容とかをまた見ることによって、これがあそこの人がやっている活動だなというようにもっと興味深く見えるのではないかなと思っています。ただずっとリアルの会議に出てきた人だけがウェブサイトに興味を持って見るのではなくて、その各地区にいてる民生委員児童委員なら 100 人以上いてるので、そんな人たちもこまめに見て、活用できるようにしないとこのネットワークのネットの網目が小さくならないのではないかなと思っています。また、この構成団体に入っていない見守り隊や子ども会などの団体も一緒に子どもに関わる人がここに入って来られるようなシステムになっていけばいいかなと思います。なので、試用期間に一生懸命閲覧し、特に民生委員児童委員協議会はあまり認知度がなくて何をしているのかなということで、一生懸命、啓発活動をしているんですけども、なかなか広がっていかないで、これを使って、もっと啓発活動ができたかなということも思っています。各団体もこんなようにも使いながら、ネットの網目が小さくなれば良いのになと希望していますので、8月からの試用を楽しみにしています。まとまっては無いですけども、こんな感じです。

○木野部会長

ありがとうございます。実は、このツールについて、佐野課長もちょうつと言っていましたけれども、うちの病院で使えないのかとなりました。というのも、去年に入職した看護師さん、今年もそうですけども、歓迎会はないわ、忘年会はないわ、マスクはしているわで、誰が誰か全然分からない。

それで、みんなが色々アイデアを出して、2分ずつしゃべって、動画を撮りなさいと。動画を全員に見てもらってね、動画だったらマスクをとってもいいので、それで2分以内でしゃべって、ということをやりましたけれど、やはりそこですごく活性化していったんです。ですから工夫っていうのは大事ですね。本当にマスクして、お酒も飲まなかったら、本当に繋がりが無くなってしまいますね。ということで、それは別にコロナが終わったとしても、いわゆる年3回しか実際に会えなかったらやはり毎日毎日繋がることも中々難しいのでね。是非うまくいけばいいかなと思っています。ありがとうございます。

大分時間も過ぎましたけれども、特に他に何かこれだけはこのご意見はありますか。もう一度言いますけれども、浅野委員、岡委員、岸本委員、私、横田委員はこれで終わりです。もう一言良かったら。

よろしいですか。また、別の機会でもありましたら、言っていただけますから。

そうしましたらその他のほうをお願いいたします。

○山田課長

議題その他は、特にございません。

○木野部会長

では、事務局からは特に無いようですので、以上で用意されておりました議題は終了いたしました。進行は事務局のほうにお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

○西係長

はい、それでは、木野部会長、進行ありがとうございました。清家副部会長はじめ委員のみなさまも本当にありがとうございました。

続いて、次第4のその他について担当課長からご説明をさせていただきます。

○山田課長

次第4のその他について企画調整担当課長の山田です。よろしくお願いいたします。

全部で3つございまして、まず1つ目でございますが、次回8月17日開催の全体会議について少しだけ説明をさせていただきたいと思います。

本日は令和3年度の旭区運営方針の取組についてご説明させていただいたところですが、次回の全体会議では令和2年度の旭区運営方針の自己評価についてご説明させていただき、区政会議委員の皆様の委員評価をいただくことになりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

本日、封筒のほうに次回の全体会議で使用する資料を事前にお配りしておりますので、また時間のあるときにご覧いただきますようよろしくお願いいたします。

続きまして、2つ目でございますけれど、9月末で委員さん全員の任期が一旦満了となります。今後皆様が所属されております団体長に次期委員のご推薦をお願いしてまいります。委員の任期は1期2年で2期まで出来ることになっていますので、1期目の委員の皆様には可能な限り2期目も継続していただきますようお願いいたします。

最後に3つ目でございますが、令和3年度の区政会議委員の学習会のご案内を7月5日付けで送付させていただいております。内容は9月9日開催のお母さんのほっとタイムと9月3日と10日開催の旭区日本語教室事業です。ご希望されるものがありませんでしたらどうぞお申込みいただけますようお願いいたします。

次第4その他については以上でございます。

○西係長

只今のご説明で何かご質問はございますでしょうか。

無いようですので、それではこれもちまして、本日の区政会議子育て・やさしさ部会を終了させていただきます。

次回全体会議は8月17日の19時から旭産業会館で開催しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それではお気をつけてお帰りください。本日は本当にありがとうございました。

○東中区長

ありがとうございました。